



題字：牛窪梧十氏



# 悲願の金メダルへ！ 攻守に躍動するパラリンピアン

**プロフィール**  
狭山市在住のゴールボールプレイヤーで、2大会連続パラリンピック日本代表。14歳の時に視力が低下する難病「レーベル遺伝性視神経症」を発症したことを機に、ブラインドスポーツであるゴールボール競技者としての生活をスタート。8月に開催されるパリ2024パラリンピックで金メダルを目指す。

## さの ゆうと 佐野 優人さん

しかし、そんな思いを遮るよう  
に佐野選手の目に異変が起こ  
ったのは14歳の冬のことでした。  
「ある日を境に視力が急激に低  
下していきました。レーベル病  
と診断され、野球を続けること  
ができないと言われた時は、と  
ても落ち込みました」  
失意の中、再び前を向いて歩  
き出すことができたのは、周り  
の人のサポートがあったからこ

「小さい頃から身体を動かすこ  
とが好きで、特に野球に夢中  
になっていました。中学校を卒業  
したら甲子園を目指して、強豪  
校で活躍することを夢見ていま  
した」  
「母や大病院の先生が、新たに  
打ち込めるスポーツがあるのか  
色々調べて勧めてくれました。  
ゴールボールに出会うことがで  
きたのもそれがきっかけです」  
最初は、野球と比べて本気で  
取り組めるだけの魅力が障害者  
スポーツにあるのか、半信半疑  
だった佐野選手。しかしその思  
いも良い意味ですぐに裏切られ  
たようです。

「小さい頃から身体を動かすこ  
とが好きで、特に野球に夢中  
になっていました。中学校を卒業  
したら甲子園を目指して、強豪  
校で活躍することを夢見ていま  
した」  
しかし、そんな思いを遮るよう  
に佐野選手の目に異変が起こ  
ったのは14歳の冬のことでした。  
「ある日を境に視力が急激に低  
下していきました。レーベル病  
と診断され、野球を続けること  
ができないと言われた時は、と  
ても落ち込みました」  
失意の中、再び前を向いて歩  
き出すことができたのは、周り  
の人のサポートがあったからこ

「初めてゴールボールを見学し  
た時、ダイナミックな動きでボ  
ールを投げ出すところや、声を  
掛け合つてチームで息の合った  
ディフェンスをするところを見  
て、とにかく「格好いい！」と一  
瞬で魅了されました」  
それからというものの、どんど  
んと競技にのめり込んでいき、  
プレイヤーとして頭角を現しま  
す。これには、野球で培った経験

「初めてゴールボールを見学し  
た時、ダイナミックな動きでボ  
ールを投げ出すところや、声を  
掛け合つてチームで息の合った  
ディフェンスをするところを見  
て、とにかく「格好いい！」と一  
瞬で魅了されました」  
それからというものの、どんど  
んと競技にのめり込んでいき、  
プレイヤーとして頭角を現しま  
す。これには、野球で培った経験

「初めてゴールボールを見学し  
た時、ダイナミックな動きでボ  
ールを投げ出すところや、声を  
掛け合つてチームで息の合った  
ディフェンスをするところを見  
て、とにかく「格好いい！」と一  
瞬で魅了されました」  
それからというものの、どんど  
んと競技にのめり込んでいき、  
プレイヤーとして頭角を現しま  
す。これには、野球で培った経験



佐野選手の日頃の活動の様子をInstagramでチェックできます

「デイフェンスでは鈴の音を頼りにボールの軌道を予想して、身体を投げ出します。野球の守備と感覚が非常に近いものがあり、この動きの速さと正確性が私の強みになっています。見ている方にも注目してもらいたいポイントですね」  
前回のパラリンピック東京大会ではチーム最年少だったこともあり、ただ無我夢中でプレーしていたとのことです。3年の時を経た今、パリ大会はまた少し違った心境で臨むようです。「チームの主力としての役割を求められていますし、その責任も感じています。パラリンピックで結果を出すことがゴールボールを多くの方に知ってもらうきっかけになると思うので、目指すはただ一つ、金メダル！絶対にやり遂げてみせます」  
力強く語ってくれた佐野選手。8月、パリの地で躍動する姿にご注目ください。

\*選手全員が視野や視力といった障害の程度による差が出ないように着用するもの